

# 平成25年度 政務調査費 先進都市調査報告書

会派名	公明党室蘭市議会
議員名	砂田 尚子、細川 昭広、柏木 隆寿
調査実施年月日	平成25年5月10日(金)
調査先 自治体名等	東京都 品川区
調査項目	「大井林町高齢者住宅：公設のサービス付き高齢者住宅事業」について
調査目的	本市においてもサービス付き高齢者住宅が民間主導で建設・運営されている。全国的にも珍しい公設サービス付き高齢者住宅を含め、24時間見守り、介護サービス・医療サービス機能を備えた高齢者複合施設を調査し本市の高齢者施策に生かす。
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口:367,903人 (H25.4.1現在) 行政面積:22.72km<sup>2</sup></p> <p>2 視察内容</p> <p>サ高住部分の戸数は、単身者用78戸、世帯用12戸の全90戸で全室に生活リズムセンサーなどを完備した24時間見守り機能付きで将来的に心身レベルが低下し介護が必要になった場合でも、可能な限り在宅生活が継続できるよう施設1階部分には訪問サービスを備えた地域密着型多機能ホーム(小規模多機能型居宅介護)や在宅介護支援センター、訪問看護ステーションを併設している。また、90戸のうち10戸を高齢者の住み替えニーズに対応した受入れ枠としており、木造市街地密集地域に居住する高齢者の住み替え住居にしている。運営についてはサ高住の運営経験がある社会福祉法人さくら会と指定管理者として随意契約したとのこと。入居者選定に関しては区担当部長、課長、社会福祉法人、民生委員の入居判定委員会で行っている。所得にもよるが最低利用月額料金は居室内の光熱水費、食事代を含まず、家賃助成制度を活用した場合、夫婦2人で105,100円、単身者で69,400円となっている。</p>
感想(まとめ) 本市へ活かせること等	平成22年に実施した区民調査の結果、約9割の世帯が品川区に今後も住み続けたいとの意向が判明。団塊の世代が高齢期を迎え今後の一人暮らしや高齢者のみ世帯の増加が見込まれることから今回の複合施設建設に踏み切ったとのこと。ただ、現実には光熱水費、食事は自己負担であり介護サービスの負担分などもあり、一定水準の所得がなければ入居は難しいとのこと。ちなみに生活保護受給者は入居できない。現在の入居者は97名で年齢構成は65歳から94歳で男女比は4:6、要支援、要介護1の方も17名いるとのこと。入居者のうち60世帯が地元町会に加入し老人クラブなどで活動されている。また、複合型施設なので施設周辺の在宅高齢者への介護サービスを行う拠点施設ともなっており、本市でも検討される地域包括支援システムでの在宅介護サービス等の充実も含めモデルケースとして検討すべきと感じた。居室も見学させていただいたが単身室、2人用室とも広さはやや狭く感じたがリビング、寝室、お風呂、トイレに緊急通報ブザーが設置され不便なく過せると思う。本市においても今後増えていく団塊世代も含めた高齢者の住み替え住宅との観点からサ高住の需要は高まってくると思うが、いまのところ活用策がない旧学校跡地などに行政主導で品川区のように在宅介護サービスや訪問看護などもある複合施設として整備するなど取組むべきと感じた。